

2007.10.14 読売新聞

# 南「城山」広場にLED設置

阿 南  
P512-1  
整備計画で  
検討委会合  
基本方針まとめる

阿南市中心部のシンボルで「城山」の呼び名で親しまれている牛岐城跡公園の整備計画について話し合う検討委会合の会合が市役所で開かれ、城跡を含む山周辺を保存しながら、公園と

して拡張する部分(約4000平方メートル)に発光ダイオード(LED)を活用した広場や駐車場を設けるなどとした整備計画の基本方針をまとめた。年内にも本計画を策定、今年度内の着工を目指す。

基本方針では、事業費は約4億円。山周辺を保存ゾーンと位置づけ、斜面の緑地化に努める。ふもとの駐車場は、イベントなどができる広場に改良し、ライトアップ用のLEDを配置する。拡張部分となる老朽化した勤労青少年ホームと、近く移転する徳島地方事務局阿南支局の跡地には芝生広場と駐車場(14台)を整備する。

また、現在3か所ある城山への出入り口が市民に分かりにくいいため、公園に面する地元商店街の一部を用地買収するなどして正面玄関をつくる。委員からは「イベントが開かれる場合、駐車場が少ない」「公園がどこにあるか分かるよう案内表示を設けるべきだ」など

の意見が出されていた。

同公園は現在約3000平方メートル。徳島藩の蜂須賀家の家臣らが支配した牛岐城の跡を1976年に市が整備。イルミネーションが人気を集め、NPO団体から「恋人の聖地」として選定されている。検討委では今年8月から、面積の拡大とLEDの活用を話し合っていた。